

旅するドクター 今号の表紙: チェコ世界遺産「チェスキークルムロフ」

高家院長が旅の途中で撮影した、世界の美しい風景を紹介します。

ヴルダヴァ川に抱かれた世界一美しい街 チェコ世界遺産「チェスキークルムロフ」。

「チェスキークルムロフ」…耳に残る軽やかな響き!
この小さな街は、チェコの中心プラハから真南の南ボヘミアにあります。地理的にドイツ系の住民が多かったことから、独語でモルダウ(ヴルダヴァ川)のクムマウ(川の湾曲部の低湿地)と呼ばれるようになり、この川がボヘミアの重要な通商路であったことから町と城の建設が始まりました。16世紀に入り当時の領主がルネッサンス様式の建物を積極的に多く建て、それから代々の領主によりバロック様式やネオ・ゴシック様式も取り入れられたようですが、ナチスドイツによる占領を経て、チェコスロバキア政府によるドイツ系住民迫害で荒廃しました。その後、例の「プラハの春」の



ビロード革命以降、歴史的価値が再認識され、急速に建物の修復が進められ、ユネスコの世界文化遺産に登録されるまでになりました。ウィーンで活躍した画家エゴン・シーレが第二の故郷と愛した街でもあります。そういえば、チェコはビールの美味しい所です。写真撮影当時立ち寄った店でビールのサービスをしてくれた男性が、チェコのビールはヨーロッパで一番美味しくて安いんだ、ヨーロッパ中の人々がパケーションで一番多く集まる所なんだと自慢していました。

編集後記	ストレス発散できていますか? ストレス発散方法は人それぞれあり、食事や運動、読書や映画鑑賞などと様々です。 もうすぐ秋ですが、秋と言えば食欲の秋、芸術の秋、	スポーツの秋などなど。ストレス発散方法と類似しているの、ストレス発散には良い季節ではないでしょうか。何かトライしてみたいか教えてください。 看護部 高島 裕華
------	--	--



アクセス
 [電車の場合]
 ■地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」下車2番出口上がってすぐ。
 [お車の場合]
 ■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。
 ■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。
 ■中央環状線(堺方面)からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら「茨田大宮1交差点」を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。
 ■中央環状線(守口・大日方面)からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道へ」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。
 ■1号線(第2京阪側道)〈枚方方面〉からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。
 病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクタブドームのコインパーキングをご利用ください。

[お問い合わせ先]
 特定医療法人 清翠会 牧リハビリテーション病院
 〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号
 URL <http://www.maki-group.jp>
 TEL.072-887-0010
 7 | まきりは vol.10

牧リハビリテーション病院 広報誌

まきりは

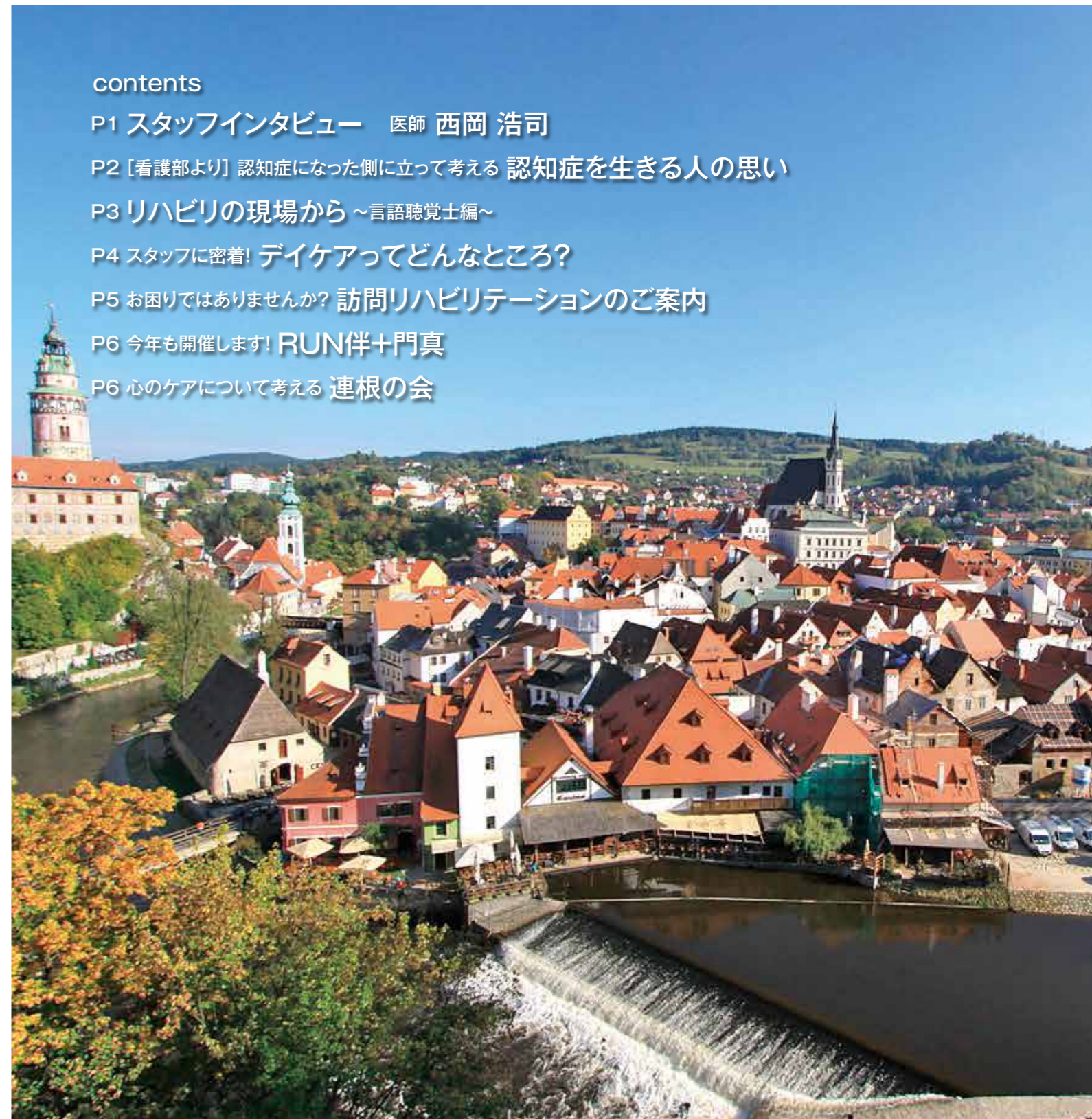
VOL. 10 平成29年9月

私たちの理念

Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

牧ヘルスケアグループは、地域の医療機関、介護事業所などと密接な連携をとり、予防から急性期、回復期、維持期、在宅の機能を担う「地域完結型の保健・医療・福祉複合体」として、みなさまの幸せな暮らしを支え続けます。私たちは「Medical for Happiness」の実現をめざしています。



contents

- P1 スタッフインタビュー 医師 西岡 浩司
- P2 [看護部より] 認知症になった側に立って考える 認知症を生きる人の思い
- P3 リハビリの現場から～言語聴覚士編～
- P4 スタッフに密着! デイケアってどんなところ?
- P5 お困りではありませんか? 訪問リハビリテーションのご案内
- P6 今年も開催します! RUN伴+門真
- P6 心のケアについて考える 連根の会

STAFF
INTERVIEW

医師

西岡 浩司
KOJI NISHIOKA



[所属学会および認定]
日本内科学会
日本臨床内科学会
日本脳神経外科学会
日本リハビリテーション医学会

日本臨床内科学会認定医
日本医師会認定産業医
日本医師会認定スポーツ医

どの部門も突出することなく皆がそれぞれの役割を果たし
患者さんを笑顔にし元気にする、まさにチーム医療です。

本年6月1日より牧リハビリテーション病院に入職させていただきました。

皆さん宜しくお願い致します。

一か月が過ぎやっとな電子カルテに慣れてきたところです。

大した者ではございませんが、ご依頼をいただきましたので経歴を簡単に報告させていただきます。

—なぜ医学の道に進んだのですか

父は、建築自動車(フォークリフト、キャタピラ、トラックなど)の海外輸出を専門にしている会社を営んでいます。私はその長男として生まれました。ですから高校一年生の夏も同級生はほとんど塾の講習に行っている中、私は実家の工場で働いていました。

高校二年生になる頃、父に「お前は商売人に向いていないから違う道を。」と言われ、医学の道を志すことにしました。

—医師になってからは

脳神経外科研修(救急医療、麻酔科なども含め)を約6年間し、専門医試験を受けるべく、大学病院にもどって病棟で働いていました。そんな中、出勤途中に心臓疾患を発症し、自分の勤務している大

学病院に入院することになりました。そのようなことがあり、研究室勤務をしながら色々考えた結果、内科に転科致しました。約7年間消化器内科を中心とした内科勤務をさせていただいた後、開業し、内科を中心とした総合診療に約16年間従事しました。

—牧リハビリテーション病院で働き始めてどうですか

今までの経験をいかして少しでも患者さんのお役に立てる医療を心掛けたく思っています。

牧リハビリテーション病院は、まさにチーム医療。PT、OT、STさん、看護師さん、栄養科の方、事務の方、放射線、どの部門も突出することなく皆がそれぞれの役割を果たし、患者さんを笑顔にし、元気にして次のステップへとバトンタッチする。医療機関に勤めて、こんなに医師以外の方に色々教えてもらったことはありません。ですから「有難うございます」と何回言っているか分からない毎日です。私も一日も早く患者さんから「ありがとう」、職員の方から「ありがとう」と言ってもらえるよう頑張りたいと思います。

認知症になった側にとって考える
認知症を生きる人の思い

看護部より

10数年前、痴呆症と呼ばれていた病、認知症。認知症を患うと何もわからなくなると思われがちですが、46歳で若年性認知症の診断を受けた女性が、認知症とともに生きていく過程で、周りの人に「望む対応」が書かれていたので紹介したいと思います。



私の心の声を聞いてほしい。

いろんな人が私の所に来て「ああしろ、こうしろ」と言うけれど
みんな自分のしたいことのために来て私の思いと苦しみに耳を傾けてくれない!

認知症を生きる人にとって必要な支援は人それぞれですが、全てを手助けするのではなく、思い出すきっかけ、達成する満足感、「ありがとう」と言われる事を望まれています。

認知症について学び認知症の方を支援する
認知症サポーター養成講座

認知症の方が生きていきやすい環境づくりの一つに、認知症サポーター養成講座があります。

60分～90分の受講でわかりやすく、どなたでも受講できますので、ご興味のある方は都道府県及び市町村の認知症対策窓口にご連絡してみてください。

リハビリの現場から

～言語聴覚士編～

牧りハビリテーション病院でリハビリに励む患者様と患者様を全力でサポートする職員の物語。



リハビリテーション部
言語聴覚療法科
言語聴覚士
藤下 真緒
(ふじした まお)

楽しい会話と笑顔で、失った言葉を取り戻す。

言語聴覚士は、言語障害や嚥下(飲み込むこと)障害のリハビリを行う専門職で、その仕事のひとつに失語症へのリハビリがあります。失語症とは、脳の病気により「言葉が話せない」「相手の言葉が理解できない」といった状態を言います。

失語症のリハビリは、絵・文字カードを使って短い言葉から練習したり、言葉の意味を取り戻したりしますが、会話を行うこともとても重要です。

私が以前担当させていただいた失語症患者さまは、絵カードを使った訓練ではほとんど言葉が出ませんでした。会話では「若い頃、鳩の飼育に熱中した」という複雑なエピソードを伝えることができました。こうした患者さまの経験から、失語症が重度であっても伝えたい気持ちが高まると言葉が出やすくなることもあり、患者さまが伝えたいテーマで会話することが言葉の回復には大切であると感じています。

私の言語聴覚士としての道はまだ始まったばかりですが、これからも「会話をしていて楽しい」と思ってもらえるセラピストを目指してまいります。

「緒にいて楽しい」と思ってもらえるセラピストを目指して!!



デイケア 門真だよ!

デイケアってどんなところ? スタッフに密着!



介護福祉士 主任
高橋 千歳
(たかはし ちとせ)

多職種がチームでサービス提供

相談員/介護職/看護師/
理学療法士/作業療法士
言語聴覚士/送迎運転手/事務員

介護職の9割以上が介護福祉士です!

常に改善を心掛け、働きやすい環境づくりをしています。スタッフの平均勤続年数は7年以上とベテラン揃い♪



送迎

お迎えに行く前に、利用者様の情報をしっかり確認して、さあ、出発! お見送りしてくださる家族様とお話できる貴重な時間を大切にしたいと思っています。車の中はいつも楽しい話でいっぱいです。



マシントレーニング

リハビリ意欲の高い利用者様が多いので、筋トレができるマシンルームは人気のスポットです。



入浴

スタッフはゆくりと安全に入って頂くことを第一に、それぞれの利用者様のもってられる力を活かせるよう一人ひとりに合わせた介助の工夫をしています。肩まで浸かれて皆様に喜んで頂いております。



リハビリ・体操

ご自宅でより良い生活を送って頂けるように、利用者様の意向を聞きながらチームで検討を繰り返し、必要なリハビリを行っています。理学療法士とともに考えた筋力強化体操にも取り組んでいます。鍛える筋肉を意識できるよう、わかりやすく説明しながら、楽しい雰囲気のできるよう心掛けています。



異動スタッフに聞きました「デイの印象をおしえて?」

看護師の曾根さん 病棟 デイ

利用者さんの活気が溢れており、皆様楽しく過ごされています。次回の来所を楽しみにしていただけるよう、明るく楽しいスタッフとともに頑張ります。



看護師の深澤さん デイ 病棟

約4年半勤務させていただきました。個性豊かな利用者さんと、ともに個性的なスタッフとともに毎日楽しくリハビリに励んでいたことが印象に残っています。

お困りでは
ありませんか?



訪問リハビリテーションの ご案内






経験豊富で元気なスタッフが訪問し さまざまなお手伝いをいたします。

牧リハビリテーション病院では、訪問リハビリテーションを行っています。買い物や調理といった日常生活のお手伝いや、ご家族向けの介助方法の案内など、介護に関するさまざまなお手伝いをしています。



3~9年の経験豊富なスタッフ15名が在籍。

訪問リハビリテーションの内容

- | | | |
|--|--|---|
|  リハビリに関して |  ご家族に関して |  その他 |
| <input type="checkbox"/> 日常生活(歩行、入浴、トイレ)動作練習
<input type="checkbox"/> 食べる・飲み込むことの練習
<input type="checkbox"/> ことばを話す・読む練習 | <input type="checkbox"/> ご家族様への介助方法の練習・指導
<input type="checkbox"/> 住宅改修・福祉用具の相談・選定 | <input type="checkbox"/> 外出・公共交通機関の利用の練習
<input type="checkbox"/> 買い物への同行や調理の補助 |

お気軽に
どうぞ!

訪問リハビリを行う目的、年齢や疾患、お体の状態、また、ご自宅の場所など、それぞれ異なるご利用者の状況に応じたリハビリを行います。
まずはお気軽にお声掛けください。

【お問い合わせ】
訪問リハビリテーション門真
TEL.072-887-0010(代表)
担当: 紙谷・浅井

みんなでつながろう! 門真の輪! 認知症になってもひとり歩きができるまちへ!

RUN TOMO-PLUS
in KADOMA

RUN 伴+門真

平成29年 11月12日(日)

雨天決行 時間/10:00~13:30

場所/門真市民プラザグラウンドおよび門真市内の外周コース

《主催》門真市介護保険サービス事業者連絡会 / RUN伴+門真実行委員会

RUN伴とは、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して、認知症の方や高齢者、介護者家族、支援者、市民がともに歩いたり走ったりしながら、ゴールを目指すイベントです。

第2回目となる今年度は、門真市スポーツレクリエーション大会と合同開催です。昨年同様、牧リハビリテーション病院は実行委員として参加し、当日は南コースの中継地点を担います。

みんなで『門真の輪』をつなげましょう!!

【参加ご希望の方】 実行委員 紙谷(訪問リハビリテーション門真)・名本(デイケア門真)までお声掛けください。当日の応援もお待ちしております!

第19回 連根の会が開催されました

今回の
テーマ

「心のケアについて考える ~おかげさま・おたがいさまのところで~」

【講師】特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺 理学療法士
浄土真宗本願寺派僧侶 能田 由依弥氏

平成29年6月10日(土)に、第19回連根の会を開催し、地域のケアマネジャーやサービス担当者の方など、総勢27名の方にお集まりいただきました。

「病院や施設に“お坊さん”がいたらどう感じますか?」という問いから始まりました。特養ビハーラ本願寺やあそかビハー

ラ病院には、僧侶がスタッフとして勤めておられ、毎日朝と夕方に読経や講話の時間があります。参加する方の宗教・宗派は関係なく、それぞれの意思で自由に参加されています。

ビハーラ活動とは、老いる・病気になる・死を迎えることへの苦悩に共感し、少しでもその苦悩を和らげていこうと取り組むこと。それは、病院や施設にも共通していることであり、とても深い学びを得られる内容

でした。私たち職員も、患者さん・利用者さん・ご家族さまに支えられ、お互いに影響し合っている存在であるとのお話が大変心に残るものでした。

「おたがいさま・おかげさま」の心を大切に、今後も地域の方々や影響し合えるよう、活気あふれる連根の会にしていきたいと思ひます。

牧リハビリテーション病院
地域連携室 加藤 安紀子

